

荻野ゼミナール活動紹介

人間科学部・人間科学科で行われている荻野ゼミは、2年生・3年生・4年生の学年ごとに3つのクラスがあり、主にキャリアやジェンダーなどを中心に学んでいます。そこで今回、2年生がゼミの中で行ってきた活動や研究についての紹介を書きました。

2023年7月1日に行われたかながわユースフォーラムにて、荻野ゼミから2年生がメインで参加しました。昨年のユースフォーラム全体のテーマ「人の和をつなげよう」を軸に荻野ゼミはジェンダー×スキンを話題に挙げ、ジェンダーを難しく捉えず、私たちが普段使う身近なものから多様性やジェンダーについて考えることを目的に発表を行いました。私たちの発表では日焼け止めや日傘を取り上げ、これらのUVカット商品は自分らしさのために誰もが使えることを例に性別を超えた人とのつながりや価値観を伝えることが出来ました。ゼミに入ってから間もない2年生がメインを務めることに緊張や不安もありましたが、全員で発表資料を作成し、進行の流れを考え、経験を大きなイベントで積めたことが今後の活

人間科学部 人間科学科2年 中山楓香・宮沢亜佑美・齋藤雫・越智悠衣花・光武和香
 動における良い機会となりました。
 2年 中山楓香



かながわユースフォーラムにおける発表の様子

人間科学部 人間科学科 荻野佳代子

2023年9月6～7日、荻野ゼミは神奈川県大箱根保養所にて初めての夏合宿を実施しました。ゼミ活動は、4年生の卒業研究の中間発表をメインに、講評や質疑応答を交えながら進んでいきました。4年生は、卒業研究の中間発表を初め



3学年合同で行った夏合宿の様子

て行う機会となり、発表や講評を通して改善点を見つけている様子でした。2、3年生は、4年生の発表を通して、来年、再来年の自分たちの卒業研究の参考とし、質疑応答を通して理解を深めました。

ゼミの活動後は保養所の美味しい夕食をいただき、リラククスして過ごしました。夕食後は保養所内にある卓球台を使ったミニ卓球大会や、みんなで持ち寄った飲み物やお菓子上で交流会を行うなど、ゼミ活動以外でもとても充実した内容となりました。ゼミとして初めての合宿ということもあり、最初は不安もありましたが、合宿準備も含め、他学年と交流する良い機会となりました。

2年 宮沢 亜佑美

2023年11月4、5日に大学内で行われた神大フェスタで、荻野ゼミは有志で集まり飲食店を出店する形で参加しました。3、4年生が中心となって企画をして下さり、ライスパーパーを使った大福の露店を出しました。上級生とゼミ活動以外で関わることは少ないですが、文化祭を通してゼミ全体で協力し、同級生同士はもちろん、学年を超えて距離を縮められたと思います。また、今回は有志の集まりということで学生が主体となって企画、経営を行いました。商品の試行錯誤や材料の調達、幅広い層のお客さんとの交流など、苦戦することもありますが、普段の大学生活のなかだけでは得られない貴重な体験をすることができました。今回の課外活動を通して活動の幅が広が

り、荻野ゼミのメンバーで様々なことに挑戦していける可能性を見出す機会にもなったと感じています。

2年 齋藤 暉

2023年11月13日、私たちはダイバーシティ推進室主催のもと、上映会を行いました。上映会ではマイクロアグレッションについての動画を30分程度視聴し、その後参加者でディスカッションを行っていただきました。マイクロアグレッションとは、日常生活で人と関わる中で意図せず、相手を差別してしまったり、傷つけてしまったりすることを言います。この上映会を通して、普段の言動にマイクロアグレッションがあることに気づくことができました。また、私たちは、学生であることや出身が違うことなどの属性で人と接するのではなく、一人一人性格が違う、多様性があることに気づき、その考えをもって人と接していくことが大切であると学びました。今回、この活動を神奈川新聞に掲載していただいたので、このような考え方がさらに広く認知してもらえらるきっかけになってほしいと思います。人々がより幸福で生きやすい社会に繋がっていくため、こうした活動に尽力したいと考えます。

2年 越智 悠衣花

2023年12月25日に「JINDAI コラボ」がZoomを用いて行われました。このコラボでは仁愛大学心理学科の稲木ゼミの学生の方々の卒論の発表を通じて行われました。また、卒論発表以外にもブレイクアウトルーム機能を用いて自

己紹介を行い、地元のおすすめスポットなどを紹介しあうなどして、交流を行いました。

このコラボを通して、同じ心理学に関する内容のなかでも幅広い視点から様々な知識を得ることができました。また、研究内容についてだけでなく、よりわかりやすく研究内容を伝えるためのパワーポイントの使い方なども学ぶことができました。

そして、今後卒論作成を行っていくうえで、どのようなことを学んでいくべきかを改めて考えられる良い機会になりました。

2年 光武 和香



仁愛大学稲木ゼミと行ったJINDAI コラボの様子